

熊本女子大学学報

No. 3

昭和45年11月2日(月)

発行所 熊本女子大学
熊本市大江二丁目七番一号
TEL 66-2201
編集発行人 熊本女子大学広報委員会

教養部より

柿村峻

大学設置基準の改正で、46年4月より大学一般教育のあり方を変更し得るようになった。もっともこの改正は現在の在學生には直接関係はないが、大学に学ぶものとして一応は心得ておく必要がある。その要点は次の通りである。

現行

現行は、一般教育を人文、社会、自然の3系列にわけ、それぞれ3科目以上をおき、全体として12以上の科目を設け、1科目は原則として4単位である。学生は卒業の資格として一般教育の3系列について、それぞれ3科目12単位以上、合計9科目36単位以上を必修とする。教職志望者は、人文系列の哲学、倫理学、宗教学のいずれか2単位(本学では4単位)、社会系列の日本国憲法2単位(本学では法学4単位のなかに含まれる)を修得しなければならないとなっている。

改正

以上の3系列および単位を改正できることになる。すなわち一般教育科目を3系列と区別しないで、人文、社会、自然の3分野にわたって並置し、その科目は、ひとつの学問分野に関するもの(現行ではこれが多い)でもよいし、また特定の主題を中心として2以上の分野を綜合したものでよい。単位数は大学で定められ、必ずしも4単位でなくてもよい。(2単位、6単位も可)卒業の資格としては、人文、社会、自然の3分野にわたって36単位を必修とする。したがって現行のように3系列それぞれの科目を要求していない。その科目および単位数の決定は大学にまかされる。ただし教育上の必要によっては、一般教育36単位のうち12単位までは外国語、基礎教育、専門教育の単位でかえられる。教職免許の条件は現行とかわりはない。

以上は改正のあらましである。これについて本学でも研究中であるが、私個人の考えとしては、3系列の重視を改めることは賛成である。大学はその教育的立場により、主体的な体系をたて得ることは新鮮な学習

の道をひらくことにならう。しかし、これらは他律的な制度の改正でこれだけではややもすると単調なげきがある一般教育の問題は解決できない。一般教育は一般教養ではない。教養は個人的な楽しみと意味が強いが、教育は教師と学生との交りがあるからこそ成り立つ。

ところが二者の間にいわゆる断絶がありはしないか。教師も反省すべきであるが、学生諸君も学問を通じて教師に一層接触してほしいものである。あまり手近かなことでどうかと思うが、学生は遠慮なく教師に質問すること、特に下学年次の学生はめんどうではあろうが、つとめて一般教育関係の研究室をたずね、教師と雑談でもよいから話し合うこと、そして研究室分蔵の文献を探索しよく知っておくこと、また自己の望む図書を購入を教師に要求してみることも、制度の改正と相まって一般教育に生気をもたらすひとつの方法であると思う。

国文学科だより

国文学科には、国文談話会と称して、研究と親睦の集りがあるのですが、毎年春・秋の二回、文学遺跡めぐりの見学旅行をやっているのです。今回はそのことについて書いてみましょう。

バスを利用しての、春は一日旅行、秋は一泊旅行というのが慣例になっています。昨年の春は、県内の万葉遺跡を廻りました。

聞くがごまこと貴く奇しくも神さび居るか
これの水島
葦北の野坂の浦ゆ船出して水島へ行かむ波立
つな夢

この万葉の歌の水島は、八代の金剛に在り、葦北の野坂の浦は、作敷の海岸に在ります。ここには、熊本出身の万葉学者森本浩吉博士の筆になる同歌を刻んだ石碑がたてられています。ついで一行は水俣に飛び、徳宮廬花の遺跡を辿った旅行でした。

秋は、福岡・佐賀を中心とした、これも主として万

葉の遺跡めぐりでした。
 志河の海人の火気焼き立てて焼く塩のからき

恋をもわれはするかも
 韓泊能古の浦浪立たぬ日はあれども家に恋ひぬ日は無し

この歌の志賀島や韓泊。福岡湾の中央にある能古の島には渡れなかったけれど、志賀島や韓泊など、何れもめったに行く機会はありますまい。

さらにバスは唐津へとぶ。
 遠つ人松浦佐用比売天恋ひに領巾振りしより負へる山の名

松浦佐用比売が、船出する夫との別れを惜しんで領巾を振ったという鏡山は、虹の松原の松原湾をひかえて優しくそびえ、悲しい伝説を今も伝えて、訪れる者の心に訴えつづけています。

さて、今年の春は、ぐっと時代も新しく、北原白秋を偲んでの柳川一日旅行でした。まず川下りに詩情をそめられながら、白秋の生家を訪れました。昨年の秋その生家は、白秋記念館として、立派に保存されることになりました。

今年の秋の一泊旅行は、11月22日、23日の連休を利用して、天草をめぐる予定になっています。天草といえば、五橋開通以来、非常に身近なものとなったけれども、その文学遺跡を探る機会というものは、そうざらにあるものではありません。天草四郎をもって代表される切支丹物語は、ロマンチックなそしてまた悲しいひびきを伝えて旅情をそそってくれます。と共に、この天草の切支丹字寮から約400年も以前にローマ織りのイソップ物語などが出版されたということは、まったく驚きに値します。崎津には天主堂が今もって残されて、切支丹のはなやかであった昔をしのばせてくれます。

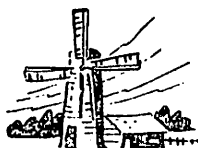
福岡には、林芙美子が泊ったという宿もあるし、かの有名な頼山陽の「泊天草洋」の詩を刻んだ記念碑もあり、また大江には

白秋とともに泊りし天草の大江の宿は伴天連の宿

という吉井勇の歌碑もたてられている由です。

とまれ、秋空のもとに、天草の文学遺跡を辿りながら大いに英気を養いたく、その日の来るのを文字通り鶴首して待っています。

(45.10.15 記 文責 本田義彦)



英文学科消息

—日本英文学会第24回九州支部大会開催決定—

まず、教官勤務について。本学科所属各教官の関係学会出席、資料蒐集等の動きは例年の通りであるが、変わったところでは、富田助教授、井芹教授の長期セミナーへの出席・研修である。前者は「理論言語学国際セミナー」へ、後者は「アメリカン・スタディズ、京都夏季セミナー」へ。いずれも2週間に亘るセミナーであった。また、同助教授は、10月18日、日本英文学会第23回九州支部大会における英語学部門シンポジウムの講師の一人として発表予定である。

次に、本学科関係最大のホット・ニュースとして、日本英文学会第24回九州支部大会開催決定について一言する。

10月17日、福岡大学における日本英文学会九州支部評議員会において、全会一致の強い要請があり幸い、学長はじめ大学当局の理解をえて、来年10月下旬、本学において上記学会開催の運びとなった。

本学会の開催は、新制大学発足以後、九州地区内各大学の巡回担当であり、すでに、主な国・公・私立の大学においては、英米文学科存在の有無に拘らず、数回の開催をみており、ことに、英米文学科をもつ本学において、現在に至るまで開催をみなかったことは、自他共に不可解の現象であった。

施設・設備の不備と学科内事情などが、これまで開催躊躇を導き出して来た主な理由であったが、近々に施設改修の見通しもなく、また、学科内に開催を阻む何らの障害も見出しえない現在、大会開催の受諾は、また、当然のことと言わねばならないであろう。

さて、大会は英文学、米文学、英語学その他の各部門を網羅、2日間にわたって挙行される。第1日は多彩な個人研究発表、第2日は各部門別のシンポジウムで、主として若い気鋭の学徒の研究発表と、熱烈真摯な質疑応答は、本学会の特色である。なお、定例行事として、シンポジウム終了後、懇親昼食会、知名学者による特別講演なども行われる。

ことに、不備な施設を基盤とする大会の遂行は、万全を期し難く、前途に幾多の困難が予想され、その克服には多大の労苦を覚悟せねばならないであろう。もちろん、英米文学科は、挙げて、本学開学以来最初のこの大会の成功に最善を尽くす決意である。だが、その成敗は、言うまでもなく、われわれの熱意と努力のみで左右することはできない。学内、外、関係各方面の強力な支援をまって、初めて達成できることである。ここに、紙上をかりて、事務、教官、全学各位の暖かい御支援、御協力を衷心よりお願い申し上げる次第である。(井芹韻成 記)

食物学科だより

本学年度の食物学科は伊勢田、木下、友田、太田原教授、林、石本助教授、東矢、太田講師、村山先生で新学期を迎えた。学科として一番大きい事件は、学科として数年来努力してきた管理栄養士養成課程への転換は断念せざるを得なくなったことである。特別学習費は本年度から解消した。本年度は3人の卒業生が管理栄養士国家試験に合格した。3年の公衆衛生、給食管理、集団給食の学外実習は多少の雑音はあったが学生諸氏の自重により順調に終了の見込みである。

東真知子さんが実習中に病に倒れたのは、卒業前の本人もさぞ無念であったこと、と思う。御冥福を祈る。(伊勢田)

○昭和45年度後期授業暦

- 10月18日 後期授業開始
- 11月14日 } 学園祭
- 11月16日 }
- 12月25日 } 冬期休業
- 1月10日 }
- 1月11日 冬季休業明け授業開始
- 1月25日 } 第4年次後期定期試験
- 1月30日 }
- 2月22日 } 第3年次以下後期定期試験
- 2月27日 }
- 3月3日 卒業式
- 3月16日 } 入学試験
- 3月17日 }
- 3月25日 } 春季休業
- 4月10日 }

昭和45年度 文部省委嘱本学開放老人講座開設

大学開放による老人教育の重要性に鑑み、本年度も文部省の委嘱を受け開設された。老人の心身の健康保持と現代社会への適応について各講師から懇切な指導が行われた。86才を最年長とし、しかも往復4時間の道程を遠しとせず通学するなど県下各地から参集した老人の学習意欲は誠に顕著で、本講座の続行が強く要請された。又、本講座発展の一助として記念基金が拠出され、日本老年社会科学会会長渡辺定博士、仏教大学教授塚本哲氏を迎えて11月10日(火)13時から本学西講堂において老人問題特別講演会が開催される。

開設時期 昭和45年8月14日から9月10日まで
 学習時間 33時間

受講人員 69名

学 習 課 題	講 師
一般 教養 熊本の詩 アメリカ文学と仏教 荘子について	学部長 山本 捨三 教授 井芹 龍成 教授 柿村 峻
心身 の 健康 異常心理の世界 老年心理とその健康法 不老長寿と細胞老化 新しい食品の調理 老人体操	教授 原田 益雄 講師 池田 勝昭 教授 太田原幸人 教授 木下 サキ 教授 伊藤 基記
老年 開発 老後の生活設計 諸外国における老令 保障	教授 渡辺 宗尚 助手 大橋 綾子

昭和45年度 本学開放老人講座(地方出張)開設

阿蘇地区および天草地区において開設されたが本講座は、大学の恩恵に浴する機会のない地方に在住する老人の新しい能力の開発や社会活動に大きく寄与し多大の感銘を与えた。

阿蘇地区

開設日時 昭和45年10月1日 11時~15時
 開設場所 碧水小学校講堂
 受講人員 400名
 学習課題 老人体操 教授 伊藤基記
 老人の食事について 教授 木下サキ
 老人心理とその健康法講師 池田勝昭

天草地区

開設日時 昭和45年10月6日 10時~14時
 開設場所 本渡市役所会議室
 受講人員 350名
 学習課題 老人期の心のもちかた 教授 原田益雄
 荘子の生死観 教授 柿村 峻
 老人体操 教授 伊藤基記

補導厚生課だより

就職状況について。最近ほどの事業所も学歴構成が高まっていく傾向を示しており、本年度から大卒女子の採用にふみきったという中小企業の求人が多くなった。それとともに初任給が上昇し、おおかたが4万円台に上っている。

求人は4月上旬から始まり、現在までに150件が寄せられた。業種別にみると、公務員、商事会社、製造業、医療機関などで、ファッションアドバイザー等という新しい職種が専攻を問わず求められ、また、会社

寮母が相変わらず多い。現在までに約50名余の決定者
をみている。なお、熊本県教員試験に71名が出願し、
第一次合格者は17名であった。

ことしの卒業生の就職状況は、県内40%、熊本県を
除く九州内に23%、京浜地区18%、京阪地区15%、そ
の他となっている。一般企業に57%が就職し、教員、
栄養士、公務員の順となっている。

就職希望者は次のことを必ず実行してほしい。就職
用掲示板を登校のつど見ること(一般掲示板も同様で
ある)。書類の提出期限を守ること。家庭でじゆうぶ
ん話しあっておくこと。

指定図書制度実施について

附属図書館

昭和45年度当初予算で本学に指定図書予算が決定し
たので本学附属図書館では下記要領により指定図書制
度を実施することとなった。

指定図書制度の目的

大学教育は原則として教室内の講義等と教室外の
自学自習とによってなりたつ単位制教育である。

この教室外の自学自習をより効果的に促進するた
め指定図書制度を実施し、これにより単位制教育の
理念を生かし、教官と附属図書館とが一体となって
教育効果を高揚することを目的とする。

指定図書とは。

教官が講義等に直接関連して学生に必読すべきも
のとして指定し、多くの場合試験演習等の際には、
その内容も出題の対象となる「教官指定学生専用図
書」である。

指定図書制度のしくみ。

指定図書制度は教官が自らの講義の内容にしたが
って開講に先立ち、指定図書を図書館に備付けるこ
とを求め、図書館では一般図書と区別して配架し、
原則として開架閲覧方式に複本を準備して学生の利
用に供するものである。

これにより教官は指定図書の内容を勘案しながら
講義を行なうもので、教官、学生、図書館が一体的
関係を保ちながら教育効果を高めるものである。

以上が指定図書制度の概要であるが附属図書館とし
てはこの趣旨にしたがい、2階の第3閲覧室を開架閱
覧方式により指定図書閲覧室とするよう準備中である
が、本年は初年度のため、教官の図書指定、図書館商
議会の裁定、図書館の事務整理等幾多の準備段階にお
いて時間を要したため整理がおくれたので目下鋭意準
備を急いでいる状態で11月中旬までには整備完了の予
定である。

また指定図書はその性格並びに保管管理上貸出しは
短期貸出(一夜貸出等)となっている。

なお、第18回卒業生寄贈図書については現在ぞくぞ
く入荷中であり(洋書はおくれる)近日中に完備する
予定である。

人事異動

(新)

会計課長	高野 久之	玉名県事務所	7・15付
図書館事務長	吉水 大四	図書館事務係長	〃
庶務課参事	池田 徳次	学部事務主任	〃
補導厚生課参事	高 数幸	県庁衛生部	〃
学部事務主任	大橋 綾子	学部事務室	〃
補導厚生課	野崎 忠也	県庁民生労働部	5・1付
教務課	奥田 益子	補導厚生課	7・15付

(退職)

会計課長	安川 一秀	6・30付退職
		鎮西高等学校へ

(転出)

庶務課	尾山 雅司	7・15付玉名県事務所へ
教務課	伴 正彰	〃 三角港管理事務所
補導厚生課	中野美智子	〃 上益城県事務所

(カウンセラーの委嘱)

本学々生の身心の健康保持についてのその相談に
応じるため次の三先生がカウンセラーとして委嘱
されたので必要に応じ相談して下さい。

原田 益雄	教授
友田 勲	教授
池田 勝昭	講師

